

おかげさまで100号を迎えました!

平成8年8月20日に創刊された「議会だより」。「議会と行政と町民のかけ橋」をモットーに、町民と議会をつなぐ情報誌としてお届けしてきました。今回は、今年で25年を迎える議会だよりの歴史を振り返り、これまでの歩みをご紹介します。

25年の軌跡をたどる

創刊号 平成8年8月20日発行



- 「たこ町議会だより」創刊号の表紙は6月定例会の様子。
- 題字は、当時の議会広報特別委員長（佐藤力彌さん）の毛筆によるもの。

平成8年 (1996)

平成11年 (1999)

第14号 平成11年11月発行

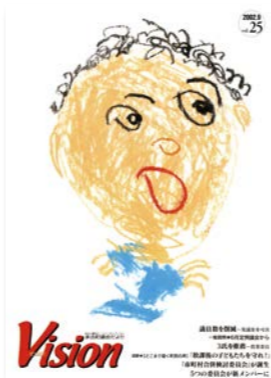


- 初めての子ども議会が開かれる。

平成13年 (2001)

道の駅多古あじさい館オープン
平成13年9月26日

第25号 平成14年9月発行



- 議員定数が、22名から20名に。
- 市町村合併問題検討委員会が発足。

平成14年 (2002)

第20号 平成13年6月発行



- 題字、表紙リニューアル。題名が「あなたと議会のツー・ウェイ・コミュニケーション 多古町議会だより Vision」に。
- 町広報と一緒に発行。

第26号 平成14年12月発行



- 市町村合併検討委員会をはじめとし、合併問題について調査・検討が進められる。

町道西古内・南玉造線開通 平成15年7月30日

第31号 平成16年3月発行



- 表紙の「建物シリーズ」がスタート。シリーズ1は道の駅多古の外観。

第32号 平成16年6月発行



- 「議会だより」単独での発行に。

第34号 平成16年12月発行



- 題字、表紙リニューアル。

平成17年 (2005)

第35号 平成17年3月発行



- 表紙の「働く人シリーズ」がスタート。シリーズ1はシルバー人材センターの皆さん。

第43号 平成19年3月発行



- 議員定数が、20名から18名に。

平成19年 (2007)

多古第三小と多古第一小が統合
平成18年4月1日

第57号 平成22年9月発行



- 議員定数が、18名から14名に。

平成22年 (2010)

東日本大震災 平成23年3月11日

議員としては、広報から



多古町議会議員 勝又 一徳

当時、議員の所町長から「とても勉強になるから」と後押しをいただき副委員長となりました。委員長は、椎名義光議員でございました。椎名委員長は現在も続く委員会の骨格である新人を多く起用した小委員会の設置や編集方法等にも大きな変革をもたらしていただきました。2期目初委員会の後、事務局職員と私に「自由に思うがままに」とのお言葉をいただきました。おかげさまで平成27年全国広報コンクール「特別奨励賞」を受賞することができました。残念ながら、受賞を待たずして椎名議員は故人となられました。この面々と続く議会広報の伝統と意思を受け継ぎ、さらなる飛躍を先人皆様にお誓いを申し上げ、本号を故・椎名義光議員に捧げます。

100号記念に寄せて



多古町長 所 一重

議会では、今どのようなことが議論されているのか？自分たちが1票を投じた議員は、どんな発言をしているのか？それらを町民の皆様にお知らせするため25年前に発行された議会だよりが、記念すべき第100号を迎えたことは、私にとりましても誠に感慨深いものがあります。私自身も、22年前の議員初当選時には広報特別委員会に所属し、議会だより発行に携わりました。どうしたら「読み手にわかりやすく、かつ興味を持ってもらえるか」と、委員皆で知恵を絞った記憶があります。現在では、議会の様子を映像で配信するようになりましたが、今でも年4回の発行を心待ちにしてくださる皆様のため、更なる紙面の充実を期待しているところであります。

議会だより100号発行を迎えて



創刊当時の町議会議員 永沼 慶一さん

議会だより100号を迎えるにあたり、お祝い申し上げます。思えば、平成8年議会の総意により創刊発行することとなり、議会内における審議内容や結果を町

第49号 平成20年9月発行



- 表紙の「未来を担う子どもたちシリーズ」がスタート。シリーズ1は多古中央保育所の園児たち。